

# 広報 しばた

6  
2011  
JUNE  
No. 596  
since 1961

## 花と緑で彩る まちづくり

魅力あふれる花のまちづくりに向け、昨年、船岡城址公園の一角に、住民の皆さんと協働で花の苗や球根を植栽したコミュニティガーデン「花の丘柴田」には、きれいな花々が咲きそろい、訪れる人の目を楽しませています。

また、6月12日(日)と18日(土)には、すてきな庭をお持ちの町民の方々の協力により、個人宅の庭を一般開放するオープンガーデンを開催しますので、足を運んでいただき、花と緑との触れ合いのひとときをお過ごしください。

## 第5次柴田町総合計画がスタート

まちの  
将来像

# みんなで育てる 笑顔輝く 元気なまち

まちづくりの主角は住民一人一人であり、みんなの熱意と行動力が新たなまちの魅力や活力の原動力となります。私たちが暮らしていく地域を快適で住み良いまちにしていくためには、人と人がふれあい、お互いの夢を尊重し、知恵や元気を出し合うことが大切です。そうした一人一人の結びつきを強くした絆によって笑顔が輝く元気なまちを育て、多くの人々が「住んでよかった」「来てよかった」「これからも住みたい」と実感できるようなまちを目指します。

人口減少、少子高齢化の進行、環境問題の深刻化など社会を取り巻く環境は、大きく変化しています。今後、柴田町が持続的な発展を可能にしていくためには、地域の特色を生かし自立したまちづくりが求められています。平成21年10月から策定作業を進めてきた「第5次柴田町総合計画」の基本構想が、3月の町議会定例会で議決されました。併せて前期基本計画と実施計画を策定しました。

## ●総合計画策定の基本姿勢

### ■コンパクトシティ\*の創造

市街地においては、「船岡駅周辺」「槻木駅周辺」「北船岡周辺」「船岡新栄周辺」を4つの拠点とし、近接した農村地区とネットワークの強化連携を図る中で、地域や経済などのにぎわいを創出するというものです。一方、農村地区においては、生活・産業などの現水準を維持しつつ、自然環境を保全し未来へ引き継ぐとともに、地域資源を生かした交流を進めていく中で、豊かな地域づくりを行います。

\*コンパクトシティとは：土地利用の郊外への無秩序な拡大を抑制すると同時に、地域の資源を利活用しながら、歩いて移動できるところに生活に必要な機能を集約した効率的で持続可能な都市、または、それを目指した都市政策。

### ■参加と協働のまちづくり

町では、平成22年4月に「柴田町住民自治によるまちづくり基本条例」を施行しました。まちづくりは情報共有に支えられ、参加と協働により進めることを基本とし、まちづくりの主角は住民であることを宣言し、担い手は住民、地域コミュニティ、住民活動団体、事業者、議会および行政機関と位置付けました。

今後、みんなの力でコンパクトシティ\*を実現する上でも、参加と協働のまちづくりを基本に、地域の主体性や自立性を尊重した取り組みを促進します。

## 総合計画 メモ

### 【総合計画とは】

将来、私たちのまちをどのようなまちにしていくのか、また、そのためには、どのような方法がよいのか、町が目指す将来像やまちづくりの方向性を明らかにし、その実現に向けたさまざまな施策を総合的かつ体系的にまとめた町の最上位計画です。

### 【計画の期間と構成】

○基本構想…総合的で計画的な行政運営を図るため、町が目指す将来の都市像を定め、その実現に向けた基本

方向などを示すものです。

平成23年度～平成30年度（8年間）

- 基本計画…基本構想を実現するため、各分野で取り組むべき基本的な施策を体系的に示すものです。計画期間は、前期と後期に区分し、それぞれ4年間とします。
  - 前期基本計画 平成23年度～平成26年度
  - 後期基本計画 平成27年度～平成30年度
- 実施計画…基本計画で定めた基本的な施策をどのように実施していくかを具体的に示すものです。計画期間は4年間とし、毎年度見直し（ローリング）します。

## ●基本目標 まちの将来像を実現するために、5つの政策基本目標を定めます。

- 1 美しい都市空間の整備 一歩いて楽しい魅力的なまち
- 2 教育・文化・交流都市の創造 一人一人が輝くにぎわいのあるまち
- 3 安心ネット・地域防災の整備 安全で安心して暮らせるまち
- 4 地域循環型経済の推進 多彩な産業が連携する元気なまち
- 5 住民参加と自治活動の実践 みんなが参加し活躍するまち



## ●将来人口

平成30年には、町の人口は36,580人になると推計され、人口減少とともに、高齢化の進展が予測されます。

今後は、健康・福祉・医療サービスの充実や「花のまち柴田」のブランド化による交流の促進など、魅力あるまちづくりで交流人口の増加を図ることにより、人口の維持、増加につなげ、平成30年(2018年)の将来人口を37,000人と想定します。

柴田町の将来人口及び世帯数（推計値）			
区分	平成21年 (2009年)	平成26年 (2014年)	平成30年 (2018年)
総人口	38,875人 (100%)	37,750人 (100%)	36,580人 (100%)
年少人口 (14歳以下)	5,116人 (13.2%)	4,730人 (12.5%)	4,170人 (11.4%)
生産年齢人口 (15歳～64歳)	25,462人 (65.5%)	23,380人 (61.9%)	21,710人 (59.3%)
老年人口 (65歳以上)	8,297人 (21.3%)	9,640人 (25.5%)	10,700人 (29.3%)
世帯数	14,572世帯	15,030世帯	15,300世帯
一世帯当たり人数	2.67人/世帯	2.51人/世帯	2.39人/世帯

## ●重点プロジェクト

前期基本計画の計画期間（平成23年度～平成26年度）において、戦略的に取り組むべき3つの施策を「重点プロジェクト」として位置付け、横断的に施策展開を図ります。

### 美しいまち創造プロジェクト

地域の資源である桜を核として、船岡城址公園や白石川堤をさまざまな花々で飾る公園整備、オープンガーデンの推進により、まちなかがたくさんの花であふれ、住民や町を訪れる人が心安らぎ、花々が彩る新風景「花のまち柴田」を創造します。

### 食と農による地域づくりプロジェクト

里山など自然とふれあう良好な環境に恵まれた自然環境を生かし、里山ハイキングコースや農産物直売所、地場産食材を利用した農村レストランなどにより、農村と都市の交流を促進します。

### タウンセールス推進プロジェクト

「美しいまち創造プロジェクト」と「食と農による地域づくりプロジェクト」を推進するためには、町内外に広く柴田町をアピールする必要があります。地域ブランド化や魅力あるまちづくりなどを住民と共に進めるタウンセールスの推進により町の知名度を高め、観光、イベントなどにより交流人口を増やします。

【総合計画策定のあゆみ】 第5次柴田町総合計画は、住民参加の機会を数多く設けて策定しました。

#### ●柴田町まちづくりアンケート調査

町の施策に対する満足度や重要度、町の目指すべき将来の姿などについて、町内在住の18歳以上の男女3,000人を対象として平成21年11月に実施しました。

#### ●柴田町まちづくりワークショップ

町の将来像や今後のまちづくりの方向性などについて、町民の視点で語り合い、検討していただくため、平成22年1月から3月までに、6回開催しました。

#### ●各種団体ヒアリング

将来のまちづくりに望むこと、今後の予定や活動する上での課題などについて、各分野の団体を対象として、平成22年7月に実施しました。

#### ●総合計画策定に係る地区懇談会

町民の皆さまから幅広くご意見をいただき、皆さまと共に考えるため、平成22年8月に小学校区単位で6回開催しました。

#### ●パブリック・コメント

基本構想と前期基本計画の素案を公表して内容をお知らせし、平成22年11月に町民の皆さまから意見を募集しました。

#### ●柴田町総合計画審議会

町長の諮問に応じて、基本構想と前期基本計画の案について審議を行い、町長に答申する機関ですが、審議会委員として、公募による町民が加わりました。

総合計画の詳しい内容は、まちづくり政策課、槻木事務所、各生涯学習センター、農村環境改善センター、西住公民館、柴田町図書館、まちづくり推進センター、町ホームページでご覧いただけます。

また、よくわかる町の仕事と予算に総合計画の概要版を掲載し、全戸配布する予定です。

6月2日から  
本格スタートします。  
お気軽にご利用ください!

参加と協働によるまちづくりを進めるために

# まちづくり推進センター

町では、住民自治によるまちづくり基本条例を制定し、住民主役の参加と協働によるまちづくりを進めています。

まちづくり推進センターは、住民の皆さんや地域コミュニティ、住民活動団体などの、まちづくりの担い手の知恵や主体性が生かされ、多様に連携し、協働をより進めるため設置されます。

具体的な事業としては、まちづくり提案制度、情報提供、交流促進などの事業を行います。

## 交流・連携の促進

現在実施している、しばたまち交流ひろば「ゆる。ぷら」の内容を継続していきます。ミーティングや会議、印刷機のご利用などが可能です。



## まちづくり提案制度の運用

住民の皆さんや団体、事業者のアイデアや行動をまちづくりに生かす制度です（5ページ参照）。



## まちづくり推進センターの事業内容

### 相談業務

まちづくり活動に関するご相談をお受けします。



### 人材育成



まちづくり活動に関する講習会などを実施します。

### 情報収集・発信



各種まちづくり情報を発信します。また、まちづくり活動のPR、情報発信の場としてご利用ください。

### 調査研究



まちづくりに関する各種調査研究を行います。



#### （お問い合わせ先）

#### ■まちづくり推進センター

住所：柴田町大字上名生字新大原194番地1  
電話：86-3631 FAX：86-3641  
Eメール：yurupura@ji.jet.ne.jp  
開館時間：10:00～18:00  
休館日：毎週月曜日（月曜日が祝日の場合はその翌日）

#### ■柴田町まちづくり政策課

電話：54-2111 FAX：55-4172

**まちづくり推進センター**  
イオンタウン柴田ショッピングセンター内

# まちづくり提案制度がスタートします

## 【説明会】

制度の内容や手続きについて説明します。  
提案制度に関心のある方は、ぜひご参加ください。参加希望の方は、まちづくり推進センターまで、お申し込みください。

日時：6月17日(金)13:30～

場所：まちづくり推進センター

## 制度の流れ

提案募集  
6月24日(金)  
↓  
7月24日(日)

まちづくり推進センターで申請を受け付けます。

提案審査会

採否について審査します。

採否の通知

提案内容や審査結果を公開します。

採択された【意見提案】は、町の事業や町政に生かされます。

調整会議開始

採択された【実践提案】は、実施に向けて提案者と町とで調整を行います。

実践提案実施計画書の作成

協議内容に基づき、実践提案実施計画書を作成します。

事業実施

実施内容の公表

## 「まちづくり提案制度」とは？

まちづくり提案制度は、住民自治によるまちづくり基本条例に規定されている制度です。まちづくりに関して「まちづくりの担い手」の皆さんのアイデアや自ら課題解決のために実践する活動をまちづくりに生かしていくことを目的に実施する制度です。

## 提案の種類

**意見提案** … 柴田町内で実施される公益的な事業などについて、アイデアの提案をするものです。

**実践提案** … 柴田町内で実施される公益的な事業などについて、提案者が町と協働での実施を提案するものです。提案者自らが実施に関わるものが対象となります。  
※対象とならない内容など、詳しくは、まちづくり推進センターなどに備え付けている「まちづくり提案制度募集要領」、または町ホームページをご覧ください。

## 提案できる方

町内に住所を有する方、または町内へ通勤・通学している方。町内の地域コミュニティ団体、住民活動団体、事業者。

## 提案書の提出

7月24日(日)までに、提案書と必要書類をまちづくり推進センターまで提出してください。

## 審査

提出された提案については、審査会を実施し、提案の採否を決定します。

## 採択

意見提案で採択されたものは、町の事業や町政に反映されるなど、まちづくりへ生かされます。実践提案で採択されたものは、事業実施に向けて町担当部署と協議を開始し、事業内容や役割分担などについて合意できた場合は、実践提案実施計画書を作成し、事業を実施します。町は、その計画書に基づき、実施に必要な支援を行います。

★提案制度の募集要領・提案用紙は、まちづくり推進センター、まちづくり政策課、槻木事務所、生涯学習施設に備え付けています。また、町ホームページからダウンロードできます。

★提案制度に関するお問い合わせは、まちづくり推進センターまでお願いします。

# 東日本大震災 地域復興のために活躍 災害ボランティア

未曾有の大震災が発生した3月11日は、柴田町社会福祉協議会が、かつて経験したことのない災害支援活動の始まりでした。ライフラインが不通の中、社会福祉協議会事業に係る利用者への安否確認に奔走しながら、17日に初めての※柴田町災害ボランティアセンターを設置しました。この災害ボランティアセンター運営にあたり、災害ボランティアセンターを登録者や町内の個人・団体ボランティアの協力をいただき、円滑に31日間の活動を実施することができました。災害ボランティア活動では、柴田町災害対策本部やいろいろな組織と連携をとることで、効果的・効率的に地域住民の支援に結び付くと実感しました。改めて、平常時の防災活動の重要性を認識することができました。

3月11日 午後2時46分  
東日本大震災発生

3月12～15日  
社協事業に係る利用者の安否確認

3月16日  
緊急民生委員会議

3月17日  
柴田町災害ボランティアセンター設置初日  
ボランティア10人

3月17日  
包括支援センターと連携

3月17日  
ボランティアセンターの活動説明

3月17日  
初めてのボランティア登録者

3月18日  
給水支援活動開始(3月26日まで、4月8日から4月14日まで)

3月24日  
震災ごみ受付支援活動開始(4月9日まで)

3月27日  
仙南中央病院支援活動開始(4月16日まで)  
4市9町社協災害協定に基づき災害支援活動開始【主に亘理町】  
活動日数10日 延べ活動者数42人(4月16日まで)

3月28日  
雇用促進住宅清掃活動開始【72戸】(3月31日まで)

4月16日  
災害ボランティアセンター閉所式

4月17日  
引き続き通常のボランティアセンター業務にて支援活動を開始

雇用促進住宅清掃活動

被災者のために作成したタオル包み

閉所式でボランティアからの感想

柴田町のために、みんなでがんばりました

亘理町支援活動

震災ごみの支援活動

屋内清掃活動

熊本市からの上野原市への救援物資

### 活動の記録

- センター設置期間：3月17日～4月16日
- ボランティア登録人数：192人
- ボランティア延べ活動人数：1,196人
- 活動件数：354件
- 主な活動内容：屋内外清掃、震災ごみ受付支援、給水支援、雇用促進住宅清掃、送迎サービスなど

※1 災害ボランティアセンターとは  
ボランティアの受付窓口になり、災害に見舞われた住民を支援するための拠点です。大きな災害が発生すると、柴田町社会福祉協議会が中心となり設置運営されています。

最後に、復興への道のりは長くそして困難なものではありますが、私たちの心を一つにして、この苦境を乗り越えましょう。

## がんばろう！ 東北・宮城・柴田

災害ボランティアに関するお問い合わせは、柴田町社会福祉協議会まで。 ☎58-1771 FAX 58-1070 ホームページ <http://www.s-shakyo.jp/>



柴田町長 滝口 茂

今月、政府の復興構想会議によって、震災復興計画第一次提言が示されます。未曾有の大震災を乗り越えての新しいま

ちづくりが、どのような姿になるのか、被災地の住民の皆さんや自治体などが、希望を持って歩み出せるようなビジョンになつてほしいと願っています。

そのビジョンを担保するのが復興財源です。しかし、その主要財源の捻出方法をめぐって、増税か国債の発行かで論争が続いています。

政府は、平成23年度の赤字国債の発行を野党が反対していることもあつてか、ゆくゆくは、消費税の増税で、それを賄おうとしているようです。それに対して、消費税の増税に懸念を示す側は、復興債など多額の国債の発行を主張しています。しかし、赤字国債にしても、復興債などにしても、将来、私たちの子どもや孫たちが、増税という形で、その「つけ」を払うわけですから、これは、現役世代の痛みの先送りにほかなりません。

## 復興財源について

柴田町も財源不足に陥った時期がありました。その時、町には、国債の発行といった痛みを先送りするすべはありませんでしたので、やむを得ず、手数料の値上げ、補助金や職員給料のカットなどを行いました。まさに、現役世代の皆さまに痛みを我慢してもらい、財源不足をカバーしたわけです。

その結果、今回の大震災では、財政調整基金(貯金)から約5億円を取り崩しての復旧・復興対策が可能となりました。あの時、思い切った行財政改革を成し遂げておかなかつたら、今ごろ、復興財源の確保はどうなつていただろうかと思うと、ぞっとします。

当然ながら、被災地の復興には莫大な復興財源が必要ですし、また、何にもまして、スピード感を持って復興を進めなければなりません。国会が、いつまでも復興財源論争に明け暮れている場合ではないと思うのです。

被災地の皆さんの希望を担保し、早く安心して暮らしていただくためには、やはり、私たち現役世代が、みんなで痛みを分かち合い、協力すべきではないかと思えます。

## みやぎ県南中核病院 からのお知らせ

問 みやぎ県南中核病院 ☎51-5500 <http://www.southmiyagi-mc.jp/>

## 震災による復旧工事について(お願い)



当院では、今回の東日本大震災のため、病院建物周囲の地面が陥没するなどの被害が発生しましたが、施設の安全面や緊急性の高い部分から修復工事を行なっており、現在は、正面玄関周りの修復工事を行なっております。

今後は、余震などの状況を考慮して順次作業に着手して行く予定ですので、来院される際には、ご不便とご迷惑をお掛けしますが、ご理解ご協力をお願いします。

広 告

広 告

## アウトドア & 保存食

6月はアウトドアシーズンの幕開け。野山の緑もますます濃くなり、梅雨前のひととき、里山へトレッキングやバードウォッチングに出掛け、心癒されてみるのはいかがでしょうか。

また、初心者でも気軽にトライできる梅干しや漬物などの保存食作りの本も集めてみました。普段はスーパーで買っているという方も、たまには自家製の漬物にチャレンジしてみたいはいかがでしょうか。



### 6月のお話し会 毎月第1・3土曜日開催

日時／6月4日(土)、18日(土) 午前11時～正午  
※事前の申し込みなどは必要ありません。

場所／柴田町図書館（ふるさと文化伝承館1階奥の「和室」）

協力／絵本読み聞かせの会「おむすびころりん」

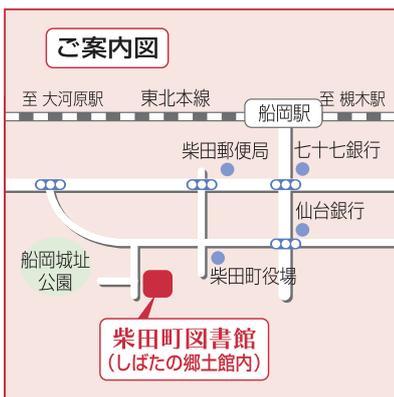
### 利用カードを作りました

図書館の本を借りるときは「利用カード」が必要です。運転免許証や保険証、学生証など、住所・氏名が確認できるものを持参してください。



#### ● 利用カードが作れる方

- 柴田町内にお住まいの方や通勤・通学の方
- 仙南地域にお住まいの方（白石市、角田市、蔵王町、七ヶ宿町、大河原町、村田町、川崎町、丸森町）



◆ 開館時間／平日 10:00～19:00  
土・日曜日、祝日 10:00～17:00

◆ 6月の休館日／6月6日(月)、13日(月)、20日(月)、27日(月)、30日(木)

問 柴田町図書館（しばたの郷土館・ふるさと文化伝承館内）  
☎ 86-3820 FAX86-3821  
Eメール :library@town.shibata.miyagi.jp

広 告

広 告

# 町長へのメッセージ 皆さんの声をお聴かせください



皆さんは、町政について「このようにしてほしい」「こんなことを取り入れたらどうだろう」と思っていることはありませんか。

町では、より良いまちづくりのために、町民の皆さんのご意見をお聴きして町政に生かしていきたいと考えています。

そこで今月号に「町長へのメッセージ」のはがきを折り込みました。皆さんのご意見・ご提案をお待ちしています。

お寄せいただいたご意見などは、町長がすべてに目を通し、関係各課と協議の上、政策立案の参考にさせていただきますと考えています。

なお、お寄せいただいたご意見などは、プライバシーに配慮し、内容の要旨のみを「広報しばた」「ホームページ」に掲載させていただきます。場合もありますので、あらかじめご了承ください。

## こうほう 文芸

### 短歌

荒廃の稜線へだて海青く  
春汐風に津波知るやも  
みどりなす駐屯の地におびただし  
応援テント各地の名あり  
幼な子に「蛙の合唱聞こうね」と  
手を引いた夜道幻のごとし

船岡 柄目けい子  
船岡 沢田 順子  
葦神 葛

### 川柳

老いの身にでっかい襖大地震  
どんぶくを着込んで余震へ身構える  
夜の余震おびえながらも風呂の中  
草むしり余震へ庭木にしがみつ  
頑是無い余震にはしやぐ孫二才  
毎日の余震が続く裸風呂  
余震来て又かまたかと目を閉じる  
鯨さんお願いだからお静かに  
万才楽祈るばかりの風呂の中  
挨拶の枕言葉になる余震  
思ひやり復興支援人の道  
芽木の雨くるりと払ふ女傘  
蠟燭にともる明るさ有り難き

榎木 斎藤ハルヨ  
榎木 曲竹セイ子  
榎木 横倉マス子  
海老穴 三浦あい子  
上名生 熊上けさの  
船岡 佐藤 貞子  
船岡 塩入 八枝  
船岡 小泉とし子  
船岡 飯淵 衛  
船岡 菊地 正浩  
榎木 大宮 二郎  
榎木 加藤 マサ  
船岡 伊藤タイ子

### 俳句

鮎邇上誰もわからぬ余震かな  
なにごともなかつたように汐まねき  
見る限り瓦礫の街よ海市であれ  
避難所の登校の子の春帽子  
春泥に漬かりしままやランドセル  
子ら嬉嬉と間借りの校舎五月来る  
さへづりや給水を待つ最後尾  
還らざるものを海猫呼ぶ津波跡  
郵便は竜宮城に春の海  
溝浚ひ地区は総出となる仕事  
春惜しむ貸車にシヨベルを抛り上ぐ  
花山葵添へし朝餉の二人膳  
空青し植田に緑増えにけり

小野 憲彦  
上遠野三恵  
江戸 裕子  
鎌形 清司  
鈴木 三山  
鈴木 清子  
鈴木 幸子  
相馬カツオ  
松崎 利保  
榎木 永井 堯  
下名生 笠松フミコ  
大槻 信吉  
榎木 大泉かずえ

広 告

広 告



# 夢空間 2011



はなちゃん (ペンネーム)



女王の番犬 (ペンネーム)

smile kids

お子さん(4歳まで)の写真をお待ちしています。写真の裏にお子さんの名前を必ず書いてください。投稿者の住所、氏名、電話番号、子どもの名前・生年月日を明記し、「ひとこと」を添えて応募してください。

## こども美術館



「自分のかお」

東船岡小学校2年

菅野唯翔さん



「自分のかお」

東船岡小学校2年

小林夕夏梨さん



ふれあいマイタウンは、町民の皆さんからの応募・紹介でつくるコーナーです。俳句・川柳・短歌に興味がある(こころ文芸)、とても素敵な方なので紹介したい(人間もよう)、自己表現コーナー(夢空間2011)、子どもの成長の写真やかわいい孫の写真を載せたいという方(町内にお住まいの4歳以下のお子さん)、はがき、手紙などで6月14日(火)までご応募ください。 ■連絡先/まちづくり政策課 ☎54-2111

広 告

広 告

広 告



## 元気で100歳おめでとう

NEWS

4月25日、槻木上町にお住まいの平間サカイさんが、めでたく満100歳を迎えられました。ご家族らが長寿を祝いました。平間さんは明治44年生まれで柴田町出身。6男1女、孫14人、ひ孫10人に恵まれました。毎日、新聞を読むことと日記を書くことを欠かさないという平間さん。100歳を迎えられるまで、大きな病気もせず、介護保険も使っていないという健康の秘訣は、この辺にもあるのかもしれない。



長寿を祝い記念撮影をする平間さんと滝口町長



明日へ踏み出す勇気を送る

## 心を一つに元気を送る

NEWS

5月8日、柴田町地域福祉センターで、しばた復興元氣市が開催されました。東日本大震災で被災し、柴田町に避難してきた皆さんを元気づけ、勇気づけたいとの思いを込め、町内のボランティア団体が結集。スタッフなどを含め約400人が参加しました。当日は、よさこいの演舞やコーラスなどの催しが行われたり、善意により全国から届いた支援物資が提供されました。少しでも明日への希望につなげてほしいと思います。

## プロの技を伝授

NEWS

5月11日、船迫生涯学習センターで、初心者の方を対象にしたビデオカメラ講座が行われました。子どもや孫の健やかな成長、旅行先での美しい風景などを映像に残そうとカメラを購入した7人が参加しました。大河原自作視聴覚教材制作グループの大浦利昭さんを講師に招いて、より感動的な映像を残すため、撮影時の基本的な心構えから、すぐに使える実践的なテクニックまで、とても分かりやすくお話しいただきました。



大切な思い出を鮮やかに残す



泥だらけでも楽しいぞ

## 一株ずつ丁寧に

NEWS

5月11日、柴田小学校で、全校児童63人が参加して田植えを行いました。農家の方から田植えのコツを教わった後、広さ5畝(約500㎡)の水田に素足で入り、苗を一株ずつ丁寧に手作業で植えました。慣れない作業と泥に悪戦苦闘しながら、米づくりの楽しさと大切さを実感していました。9月には、稲刈りと収穫祭が予定されており、子どもたちは実りの秋の到来をとても楽しみにしています。

### 人口と世帯数



38,429人  
(前月比165人増)



19,132人  
(前月比114人増)



19,297人  
(前月比51人増)



14,576世帯  
(前月比172世帯増)

(平成23年5月1日現在)